



まつした 浩 明 松下ひろあき県議会リポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉県中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

県道飯岡一宮線

緑海橋は概略設計に着手

県、歩道整備を早期事業化へ

県議3期目に入り、充実の議会活動を展開する山武市選出の松下浩明(まつした・ひろあき)県議は、6月定例会県議会で再び一般質問に登壇しました。松下県議は、これまでも地元の県道飯岡一宮線に架かる「緑海橋」の歩道整備を訴え続けてきましたが、今議会では県土整備部長の答弁で「歩道の整備が必要であり、今年度概略設計に着手し、早期事業化に努める」との大きく前進した答弁を引き出しました。

また、東京五輪への取り組みに関連し、これまでの山武市とスリランカの交流によって、山武市が「ホストタウン」に認定されたことを紹介し、かつての同国大統領の名演説を引用しながら、スポーツを通じた世界各国の相互理解と友好を強く訴えました。その他の主な質疑と合わせ、特集しました。

緑海橋の歩道

松下議員 県道飯岡一宮線にかかる「緑海橋」は、緊急輸送道路であり、有事の際は沿岸の住民が指定避難所へ向かうための重要な橋であるとともに、日頃は小学生の通学路にもなっています。

しかしながら、この橋は前後の道路に比べて道幅が狭く、歩道もないことから、歩行者は常に危険な状態にさらされており、実際に事故も発生しています。これだけ重要な橋梁でありながら、歩行者の安全が確保されていない状況について、早急に改善を図るべきと考えます。

県土整備部長 緑海橋は通学路に指定されていますが、歩道が未設置で、道幅も狭く、路肩の歩行幅員が確保できない状況であり、地



スリランカ大統領の演説を引用して国際交流を訴える松下県議

6月県議会一般質問に登壇

作田川の河川整備

松下議員 作田川の河川整備の進捗状況と、中金ヶ谷橋から上流の整備の見通しはどうか。

県土整備部長 作田川は、河口から源川合流点までの15・4キロ区間で、時間雨量50ミリの降雨に対応する河川整備を実施しております。

市内交通安全対策

松下議員 山武市内の交通安全対策事業の実施状況はどうか。

県土整備部長 山武市内では現在、県道千葉八街横芝線の山武市埴谷地先など6カ所で歩道整備を実施しており、また国道126号の山武市成東地先の津辺交差点において、交差点改良を進めているところであります。

防災組織の活性化

松下議員 県内での自主防災組織の設置状況はどうか。また、県としてのよう

略設計を実施し、歩道の構造や施工方法を検討します。今後は地元の皆さまのご協力をいただきながら、早期の事業化に努めてまいります。

現在、この整備済み区間の上流にある成東堰橋の架け換え工事を行っているところであり、今年度、橋梁下部工事に着手する予定であります。

要望 山武市内には、飯岡一宮線・松ヶ谷地先、飯岡片貝線・蓮沼イ地先、日向停車場極楽寺線雨坪地先、成田成東線松尾町下大蔵地先から金尾地先など、まだまだたくさんあります。特に、雨坪地先については、今後、学校が統廃合により通学路になることもありますので、対策を講じよう要望します。

うな支援をしていくのか。防災危機管理部長 本県の自主防災組織は、平成27

●山武市と県政についてのご要望をお寄せください。

松下ひろあき 県議事務所

〒289-1223 山武市埴谷1867-35 TEL・FAX0475-89-0718

■松下ひろあき公式ホームページ <http://www.hiroaki-m.net/>

年4月現在、5369団体であり、組織率は全国平均が81%、本県は59.5%です。また、県では千葉県防災基本条例で、自主防災組織を、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」の取り組みの中心的な担い手として位置付け、市町村と連携し、積極的に設置と活動支援をすることとしています。県では現在、自主防災組織の資機材整備など財政支援や、活動を担うリーダーの養成、模範となる団体の表彰などを行っています。今後はさらに、防災研修センターを整備し、実践的な研修や訓練を行うなど、自主防災組織の活動が一層活性化するように、取り組んでまいります。

山武市とスリランカ「ホストタウン」に認定

名演説引用し相互理解訴え！

松下議員

東京オリンピック・パラリンピックの開催に

は、千葉県や県内の市町村も何らかの形で参加し、スポーツを通じてさまざまな交流を図り、その中から地域づくり、まちづくりのきっかけをつかみ、安倍政権が掲げる地方創生への起爆剤としてつなげていくべきだと考えます。

特にパラリンピックの開催を契機に、障害者スポーツ全体に対する理解の促進につなげていく必要があると考えます。そこで伺います。東京オリンピック・パラリンピックを成功させるためには、県民の競技への理解を深め、周知・普及を図ることが重要と考えますが、県はどのように取り組むのか。

総合企画部長

幕張メッセで開催するオリンピック3

競技については、昨年度に続

き、競技団体の協力のもと、オリンピックを招いた体験会やスポーツ教室を開催してまいります。

人も共に参加できる体験会を開催するとともに、競技普及の担い手となる地域のスポーツ指導者や教職員への研修を実施し、競技の周知を図ってまいります。

国は、オリンピックに参加する世界各国と人的・経済的・文化的交流を図る地方団体を「ホストタウン」として登録する仕組みを作り、千葉県では、山武市とスリランカ国との交流が認められ、唯一ホストタウンに選ばれたところです。

松下議員のあいさつ

今回の決定を受け、スリランカについて少し調べたところ、日本とスリランカとの間に意外に深い関係があることが分かりました。世界で一番早く日本と正式に外交関係を結んだ国は、スリランカでした。そのきっかけとなった出

来事は、第2次世界大戦のサランシスコ講和会議のことです。戦争に勝ったアメリカやイギリスなどによって作られた「日本分割占領案」により、日本は4地域に分割される予定でしたが、スリランカ、当時のセイロンの大統領、

さらに、インターネットによる動画配信をはじめ、幅広い媒体を活用するなど、さまざまな手法を通じて、開催競技の周知・普及に積極的に取り組んでまいります。

この演説によって、戦勝国は日本占領に対する考えを改め、日本は分割されずに済んだとのこと。敗戦から復興し、今の日本の繁栄があるのも、このスリランカ大統領の名演説のおかげと言っても過言ではないのではないか。うか。

こうした歴史的な出来事を、このたびのホストタウンの取り組みの中で、山武市民、千葉県民、そしてすべての日本人に知ってほしいし、また知らなくてはいけないのではないかと思います。



再質問で県の考えをたずねる松下県議

プレミアム夏ネギ

松下議員

山武地域のネギの評価を高めるため、県ではどのような取り組みを行っているのか。

農林水産部長

山武地域をはじめ、本県産ネギの評価をさらに高めていくために

いては、冬季の温度管理方法の改善などにより、産地形成が図られ、市場からは肉厚でみずみずしく、軟らかいと評価を得たところです。

今後とも、オール千葉体制のもと、JA間の連携を強化し、量販店等の大口需要や加工業務用需要などの市場ニーズに適切に対応することなどにより、山武地域を中心とした本県産ネギの評価をより一層高め、生産者の所得向上を図ってまいります。

いちご新品種

松下議員

いちごの新品種「千葉S4号」の販売開

始に向け、県ではどのようにPRしていくのか。

農林水産部長

新品種「千葉S4号」は、需要が増える3月以降の収穫量が多くなる特徴があることから、いちご狩りや直売に向く品種として、平成29年度の販売開始を予定しています。

県では、多くの方に親しんでいただけるよう、愛称募集や人気投票を実施し、その取り組みが新聞やテレビなど多くのメディアに取り上げられ、認知度が大きく

生涯大学校と地域活動

松下議員

生涯大学校で

学んだ学生は、卒業後、どのように地域で活躍しているのか。

健康福祉部長

生涯大の学生は、卒業後も自主的なグループを立ち上げ、積極的に地域活動に参加しています。平成28年度の卒業生に対して行ったアンケートでは、回答者の約7割の方が地域活動を行っており、このうち約4割の方は入学後から地域活動を始めたという結果が出ています。

地域活動の具体例としては、清掃や植栽などの環境美化活動、自治体が主催する行事への応援、高齢者施設における介護ボランティアなどの参加など、生涯大で学んだ知識を生かし、各地域で積極的に活動

京葉線の複々線化

松下議員

JR京葉線と

りんかい線の相互直通運転について、「鉄道アクセス向上に関する調査」では、その前提となる京葉線の複々線化は厳しいとの結果が出ています。交通政策審議会の答申を受けて、県はどのように認識しているのか。

森田知事

両線の相互直通運転を実現する手法の一つとして、京葉線の複々線化



傍聴席を埋めた支援者の皆さん

向上しました。今後は、販売開始に向けて9月に愛称を発表し、早春の観光キャンペーンと連携したイベントの開催など効果的なPRを展開してまいります。

が心身ともに健康に暮らしていくための「生きがいづくり」の視点はもとより、高齢者に期待される「地域活動の担い手育成」をさらに充実させていくといった視点が重要と考えています。

を調査しましたが、多額の費用が必要で、採算性が厳しいということが分かりました。

一方、相互直通運転は、利用者にとっては利便性が非常に高く、交通政策審議会の答申でも意義ある事業と位置付けられたところであり、県としては、相互直通運転の実現を目指していきたいと考えています。